

大型クラゲの大量出現予測、漁業被害防除及び有効利用技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 水産総合研究センター日本海区水産研究所 飯泉 仁

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

2002 年、2003 年と連続して日本海沿岸に大量に出現した大型クラゲは、多くの漁業被害をもたらし、今後も発生が危惧されている。本課題では、大型クラゲの生態及び大量出現の要因を解明し、出現予測及び到達予測技術を開発するとともに、大型クラゲの入網回避及び排除技術、大型クラゲの処理・利用技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 大型クラゲの大量発生要因と日本沿岸への出現機構の解明 ((独) 日本海区・中央・西海区水産研究所、広島大学、(独) 水産大学校、福井県水産試験場、(財) 日本水路協会海洋情報センター、(独) 国際農林水産業研究センター)

大量発生要因の解明及び日本沿岸へ出現機構の解明を行う。

- ② 大型クラゲの漁業被害防除技術の開発 ((独) 水産工学研究所、新潟県水産海洋研究所、京都府立海洋センター)

大型クラゲの漁場における行動特性を解明する。漁具を試作し効果的な防除及び排除技術を開発する。

- ③ 大型クラゲの有効利用技術の開発 ((独) 中央水産研究所、福井県農業試験場食品加工研究所、青森県ふるさと食品研究センター、鳥取県産業技術センター食品開発研究所)

大型クラゲの機能性成分の探索、高付加価値化技術の開発及び加工原料特性の解明を行う。

5 目標とする成果

発生要因の解明によって大型クラゲの発生予測が可能になり、日本沿岸への出現機構の解明と合わせ出現予測技術が開発される。被害の大きい定置網及び底曳き網について、被害防除技術及び対策指針が開発・作成される。機能特性を生かした食品等の開発等、有効利用技術が開発される。これらにより、漁業被害の低減が期待される。